

関経連米国・カナダ経済調査団派遣報告

当会では2026年3月8日～15日の日程で、鈴木博之 国際委員長を団長とする19名の経済調査団を、米国(サンフランシスコ・シリコンバレー)およびカナダ(バンクーバー)に派遣した。本調査は、AIの社会実装の最前線およびオープンイノベーションを支えるスタートアップ・エコシステムの実態を把握し、今後の関西での取り組みへの示唆を得ることを目的としたものである。

調査団派遣の目的

米国・カナダはいずれもAIの先進地であり、オープンイノベーションやスタートアップ・エコシステムに関する取り組みが進んでいる。そこで、両国におけるAIの先進事例や企業での導入事例、オープンイノベーションやスタートアップ・エコシステムの実態について調査することを目的として調査団を派遣し、両国の企業、大学、支援団体等を訪問した(表)。

米国：サンフランシスコ・シリコンバレー

■ AI中心への産業転換と実装力

世界最先端のイノベーション拠点であるシリコンバレー。その競争優位の本質は、「圧倒的な資源」に加え、「スピード」と「AIを核とした実装力」、さらにそれらを支えるマインドセットが一体となっている点にある。

同地域では、生成AIを中心に産業構造の転換が急速に進み、投資・人材・技術の重点もAIへと大きくシフトしている。2023年のAIへの投資額は約1,500億ドルに達し、過去最大規模の技術革新が進展している。今後は、ロボティクスや半導体と融合した「実社会への実装」が一層重要となる。その一例である自動運転タクシー「Waymo(ウェイモ)」はすでに700台以上稼働しており、研究成果の社会実装も極めてスピーディーに進められている。

こうした素早い変革を支えているのが、世界最大規模のスタートアップ・エコシステムである。大学、



自動運転タクシー「Waymo(ウェイモ)」

スタートアップ、企業、ベンチャーキャピタルが高密度に集積し、資金・人材・情報が高速で循環する構造が確立されている。

■ スピードを生む文化と課題

シリコンバレーにおける最大の競争優位はスピードにある。その優位性は、同地域に根づく「失敗を許容する文化」によってもたらされている。

シリコンバレーでは、技術が未完成の段階でも市場投入し、試行錯誤を繰り返すことが前提となっている。その背景には、失敗を学習機会として評価する価値観に加え、日本企業にみられる「イエス・バット(提案を肯定しつつ否定する)」の思考ではなく、「イエス・アンド(提案を土台に発展させていく)」の思考に象徴される建設的な議論姿勢がある。こうしたマインドセットは、資源の集積をイノベーションへと転換する原動力となっている。

加えて、スタートアップ評価では、各人材の学歴や職歴等のバックグラウンドなどを含めた経営チームの質やその成長可能性に対して投資が行われている。

一方で、シリコンバレーでは住宅をはじめとする物価高騰が深刻化しており、人材確保や生活基盤への影響が課題となっている。

カナダ：バンクーバー

■ 産学官連携によるAI基盤の構築

バンクーバーを含むブリティッシュ・コロンビア(BC)州では、AIを将来の基幹産業と位置づけ、州政府・大学・企業が連携したエコシステム構築を進めている。2017年には世界に先駆けてAI国家戦略を策定し、研究拠点整備と人材育成を推進してきた。特に応用AI分野において、研究成果をスタートアップ創出へとつなげる基盤が形成されている。

支援体制の面では、州政府の投資誘致機能やAIネットワーク、大学アクセラレーターが連携し、研究・人材・企業を結ぶハブとして機能している。また、米国に比べ人件費やオフィスコストが低く、研

究開発や実証拠点としての優位性を有している。

技術開発では、短期的な市場投入よりも信頼性・安全性を重視し、公共分野での実証を通じて段階的に成熟させる点に特徴がある。大学を中核に、基礎研究から社会実装までが連続的に進められている。



ブリティッシュ・コロンビア大学への訪問

■ インフラの制約と成長課題

カナダでは、AI需要の拡大に伴うデータセンター増加により、電力供給における制約が顕在化している。BC州は水力発電中心のクリーンな電力構成を有しているが、供給には限界があり、用途に応じた電力配分の最適化が必要な状況となっている。将来的には、原子力の小型モジュール炉(SMR)など次世代電源の活用も議論されている。

投資面では、長期支援型のベンチャーキャピタルや「ソブリンAI*」の観点などから公的AIインフラへの投資が進められている。一方、資金規模の制約から成長段階では米国市場や投資家との連携が不可欠となっている。

*特定の国家や組織が自国や自社のデータおよび技術を基に、外部への依存をおさえつつ、自立的に運用・管理するAIシステム

総じてカナダは、研究基盤と政策主導型の支援、エネルギー政策を含む協調型モデルにより持続的な発展を志向している。資金規模と市場規模、スピードの面では米国に及ばないものの、カナダ市場や現地企業の特徴が、今後、日本企業にとって有力なパートナーとなり得る可能性を強く感じた。

構造的優位性等に着目した取り組みを

今回の調査団を通して、シリコンバレーおよびバンクーバーにおけるAIを中心としたイノベーションの動向やスタートアップ・エコシステムへの理解を深めることができた。両地域に共通するのは、大学、研究機関、スタートアップ、企業、投資家、政府等が有機的に連携し、継続的に価値創出を行う体制が確立されている点である。

米国は豊富な資金と人材を背景に、「創出から急速な事業拡大」までを一気通貫で実現するエコシステムを有している。一方、カナダは実証環境やコスト競争力を生かし、米国のエコシステムを補完する役割を担っている。そして、両地域の共通課題として、AI普及に伴う電力供給やデータセンターといった、インフラ面の制約を抱えていることもわかった。

これらの知見は、今後の関西におけるエコシステムの高度化やAIの社会実装を進める上で重要な示唆となる。特に「研究と実装の距離」「資金循環の速度」「失敗許容度」といった構造的優位性に注目することが、持続的なイノベーション創出の鍵となる。

当会では、今回得た知見や構築した米国・カナダとのネットワークを生かし、関西のエコシステムの発展に取り組んでいく。(国際部 濱田浩一)

表 米国・カナダでの主な訪問先

米国：サンフランシスコ・シリコンバレー	
ジェットロ・サンフランシスコ事務所	ジェットロの米国・サンフランシスコにおける活動拠点
Berkeley SkyDeck	カリフォルニア大学バークレー校が運営しているスタートアップ・アクセラレーター
USMAC (US MARKET ACCESS CENTER)	外国企業のサンフランシスコ・シリコンバレー進出、世界市場でのスケールアップを専門に手掛けるアクセラレーター
Plug and Play	世界トップレベルのアクセラレーター/ベンチャーキャピタル
WIL	スタートアップへの投資を行うグローバルファンド
現地進出の日本企業	住友商事 Presidio Ventures、ダイキン工業 Daikin Open Innovation Lab Silicon Valley
在サンフランシスコ日本国総領事館	
カナダ：バンクーバー	
ブリティッシュ・コロンビア州貿易投資局	ブリティッシュ・コロンビア州政府の貿易投資促進部門
AI Network of BC	AIに関する非営利団体。イノベーション促進、ネットワーキング、商業化支援等を行う
ブリティッシュ・コロンビア大学 (ICICS, HATCH)	ICICS：先端技術システム分野における共同研究を支援する学際的な研究機関、HATCH：スタートアップ・アクセラレーター
Greater Vancouver Board of Trade	カナダ・バンクーバーを代表する民間経済団体
Pangaea Ventures	先端素材やハードテックの分野で世界的に有力なベンチャーキャピタル
現地進出の日本企業	カナダ三菱商事
在バンクーバー日本国総領事館	